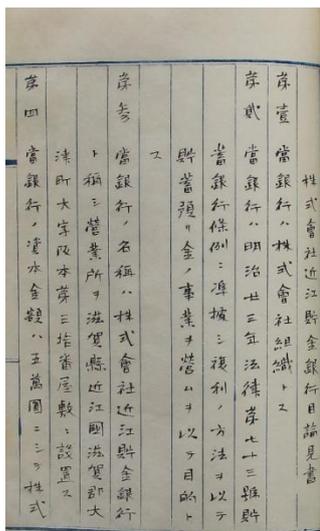


10



「近江貯金銀行目論見書」

明治28年(1895)5月

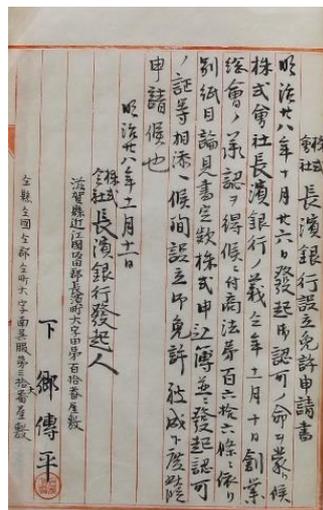
県下では日清戦争後の明治28年から32年頃にかけて、近江貯金銀行のような地方資産家による小銀行が多く誕生しました。近江貯金銀行は明治28年7月に設立され、大正13年の解散まで本店を大津、支店を大溝、今津、海津、堅田に置いています。この目論見書によると資本金は5万円でした。【明て69(81)】

11

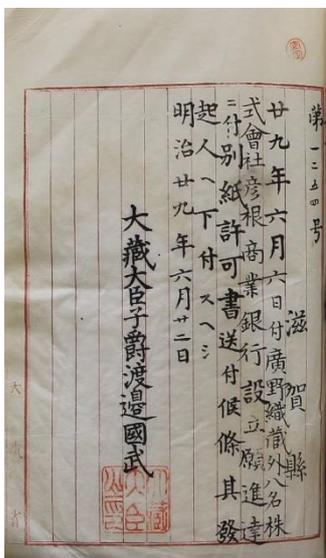
「長浜銀行設立免許申請状」

明治28年(1895)11月11日

長浜貯金銀行の設立と同年の明治28年12月、長浜市北船に長浜銀行が誕生します。当初の資本金は25万円で頭取に近江製糸の創業者下郷伝平が就任しました。日露戦争までは営業の拠点を広げていきましたが、戦後はその影響による生糸相場の変動を受け損失を被ります。結果、明治39年に近江銀行と合併することになりました。【明て3(4)】



12



「彦根商業銀行設立許可通知状」

明治29年(1896)6月22日

当時、国立銀行には私立銀行のような貯蓄業務が許されていなかったため、この部分を独立させるかたちで、明治28年6月に第百三十三国立銀行の中小企業向け金融機関として資本金4万円で近江貯蓄銀行が、翌年7月には同じ目的により資本金20万円で彦根商業銀行が設立されました。【明て9(43)】